

【資料】日本語SLA研究に関連するレビュー文献一覧（未完）

佐々木嘉則（お茶の水女子大学）

本稿では、前掲の「研究成果」に収録した今回の科研プロジェクトの所産（『第二言語習得・教育の研究最前線』収録のもの）以外で日本語習得・教育に関するレビュー論文を入手しうる限り集め、掲載媒体別に列挙することにより、これからレビューを執筆しようとお考えの研究者の参考に供するものである。ただし、あまり古い文献を収集しても目的に照らして意味がないので、原則として西暦2000年以降に発表されたものに絞り、それ以前の文献は主要なものに限ってここに収録した。日本語習得に言及していない一般的な習得論・言語教育の文献、概論書／入門書的なものは除外した。学部紀要・科研報告書に収録された論文で条件に該当するものは知りうる限り収録したが、今回は網羅的な文献調査を広範囲におこなうだけのマンパワーを確保することができなかったため、遺漏もあることと思う。今後、読者諸賢のご指摘を得て完璧なものに近づけていきたい。

なお、第二言語習得・教育と直接に関連しない国語学的な研究のレビューは本稿の対象外であるが、『国語学』誌上に数多く蓄積されている。（金澤裕之氏の指摘に負う。）

『第二言語としての日本語の習得研究』に収録されたレビュー（10本）

戸田貴子(2001)「日本語音声習得研究の展望」『第二言語としての日本語の習得研究』4, 150-169.

Shirai, Yasuhiro (2002) The aspect hypothesis in SLA and the acquisition of Japanese. *Acquisition of Japanese as a Second Language* 5, 42-61.

小柳かおる(2002)「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』5, 62-96.

深田淳(2002)「ポライトネスの習得研究—その現状と展望」『第二言語としての日本語の習得研究』5, 97-107.

堀場裕紀江(2002)「第2言語としての日本語リーディング研究の展望」『第二言語としての日本語の習得研究』5, 108-132.

菅谷奈津恵(2004)「プロトタイプ理論と第二言語としての日本語の習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 121-140.【別稿「この論文は研究成果」にも掲載。】

山内博之(2004)「語彙習得研究の方法：茶筌とNグラム統計」『第二言語としての日本

語の習得研究』7, 141-162.

岩下倫子(2004)「第二言語習得における会話練習の役割：否定フィードバックの先行研究の概要と今後の研究課題」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 163-185.

森純子(2004)「第二言語習得研究における会話分析：Conversation Analysis(CA)の基本原則、可能性、限界の考察」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 186-213.

田中真理・長阪朱美(2004)「日本語と英語を目標言語とするライティング評価基準の展望：第二言語としての日本語のライティング評価基準作成に向けて」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 214-253.

畑佐由紀子編(2003)『第二言語習得研究への招待』くろしお出版に収録されたレビュー(8本)

(この書籍に収録されている論考は全て日英対訳形式であるが、和文の標題のみを以下に掲げる。)

ウェイ諸石万里子(2003)「第二言語としての日本語習得におけるインプットと相互交流の役割」

柳町智治(2003)「社会言語学的 AJSL 研究における新しいアプローチー目標言語の使用とインタラクションの文脈への注目ー」

佐々木嘉則(2003)「競合モデルに基づく第二言語習得研究の論点ー日本語習得の視点からー」

森美子(2003)「日本語における語彙習得」

近松暢子(2003)「外国語としての日本語の読み・読解研究」

畑佐由紀子(2003)「第二言語における作文研究の現状」

サミミー小宮桂子(2003)「学習者の個人差：学習者の情緒的要因と日本語教育」

畑佐一味(2003)「日本語 CALL の現状と今後」

Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press. に収録されたレビュー(7本)

(編集者の一人である白井恭弘氏より、刊行前の同書の収録論文に関する情報を御提供いただいたことに感謝する。)

Horiba, Yukie (in press). Reading in Japanese as a second language. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Iwasaki, Noriko (in press). Speaking Japanese as a second language: L2 Japanese sentence production. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Thomas, Margaret (in press). Japanese, the grammar of reflexives, and second language acquisition. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Koda, Keiko (in press). Development of lexical competence among second-language readers. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kanno, Kazue (in press). Accessibility of Universal grammar in second language acquisition. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nishimura, Miwa (in press). Intrasentential code-switching in Japanese and English. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- SASAKI, Yoshinori & MacWhinney, Brian (in press). Contentions of Language Acquisition Research based on the Competition Model. Nakayama, M., Madzuka, R., & Shirai, Y. (Eds.) (in press). *East Asian Psycholinguistics: Volume 2, Japanese*. Cambridge: Cambridge University Press.

『日本語教育』に収録されたレビュー (4 本)

- 長友和彦 (1993) 「日本語の中間言語研究－概観－」『日本語教育』 81, 1-18.
- 小柳かおる (1997) 「米国における第二言語習得研究動向 : 日本語教育へ示唆するもの」『日本語教育』 97, 37-53.
- 小柳かおる (2001) 「第二言語習得過程における認知の役割」『日本語教育』 109, 10-19.
- 吉岡薫 (1999) 「第 2 言語としての日本語習得研究－現状と課題」『日本語教育』 100, 19-32.

その他の学術誌に収録されたレビュー (2 本)

- 田中共子 (1998) 「在日留学生の異文化適応：ソーシャル・サポート・ネットワーク研究の視点から」『教育心理学年報』 37, 143-152.
- 戸田貴子 (2003) 「外国人学習者の日本語特殊音の習得」『音声研究』 7: 2, 70-83.

『日本語国際センター紀要』に収録されたレビュー (2 本)

- 横山紀子 (1998) 「言語教育におけるインプットとアウトプットの果たす役割」『日本語国際センター紀要』 8, 67-79.
- 横山紀子 (1999) 「インプットの効果を高める教室活動」『日本語国際センター紀要』 9, 37-80.

その他の書籍に収録されたレビュー (3 本)

- Kess, Joseph F. (著), Miyamoto, Tadao (著) (1994) *Japanese Psycholinguistics* (Library and Information Sources in Linguistics) John Benjamins Publishing Company ; ISBN: 9027237506
- 長友和彦 (1998) 「第二言語としての日本語の習得研究」日本児童研究所 (編)『児童心理学の進歩 1998 年版』金子書房, 79-110.
- 坂本正 (2004) 「日本語教育と第二言語習得研究の接点を求めて」小山悟・大友可能子・野原美和子 (編)『言語と教育』くろしお出版 329-350.

科研報告書に収録されたレビュー (2 本)

- 長友和彦 (1999) 「第二言語としての日本語の習得研究：概観、展望、本科学研究の位置づけ」『第 2 言語としての日本語の習得に関する総合研究』平成 8～10 年度科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者カッケンブッシュ寛子：9-41. (長友(1998)をほぼ転載)
- 松崎寛 (2004) 「発音評価研究の展望」小林ミナ (研究代表者)『日本人は何に注目して外国人の日本語運用を評価するのか』平成 12～15 年度科学研究費補助金 基盤研究 研究成果報告書 (課題番号 12480058) 37-51.